

シジュウカラの巣立ち後に起きた、自然界の「片付け屋」の働きを記録した貴重な映像です。巣箱では数羽のヒナが無事に巣立ったものの、残念ながら2羽は巣立ちに至らず、そのまま命を終えました。やがて巣箱に現れたのが、黒地に橙色の模様を持つヨツボシモンシデムシ（四星紋死出虫）です。2匹がほぼ同時に行動していることから、繁殖を目的としたペアであった可能性があります。

驚かされるのは、その運搬能力です。シデムシ（死出虫）は体長2センチほどの甲虫ですが、自分よりはるかに大きな小鳥の死骸を動かす力を持っています。映像では、巣箱の隅にあったヒナの死骸が、少しずつ中央の産座付近へ移されていく様子が見られます。本来なら地中へ埋葬する習性を持つ昆虫ですが、木製の巣箱では土を掘れないため、代わりに巣草が多く、利用しやすい場所へ運び込んだのでしょう。

ヨツボシモンシデムシは、死骸を単なる餌として利用するだけではありません。死骸を整え、腐敗を抑える分泌物を塗り、そこで幼虫を育てるといった高度な子育てを行います。昆虫としては珍しく、親が幼虫に餌を与えることでも知られています。この映像は、シジュウカラの繁殖が終わったあと、その命が今度はシデムシの繁殖を支える資源へと受け継がれていく過程を映し出しています。

私たちはつい「死」を終わりとして捉えがちですが、自然界ではそうではありません。1つの命が別の命を支え、生態系の中で循環していきます。小さな巣箱の中でシジュウカラの子育てが終わり、その名残を利用して、今度は昆虫の子育てが始まったのです。森の中で日々静かに続いている生命のつながりを教えてくれる、たいへん興味深い記録といえるでしょう。

(2026年6月上旬／北軽井沢／東京から遠隔観測)

